

## 10 試験研究

### 林業試験場試験研究課題

試験研究項目	研究期間	研究内容	担当研究室
1 県産材の需要拡大に関する研究			
(1) 県産スギ材の材質及び強度に優れた品種の選抜	H23～27	森林所有者の再造林意欲を高めるため、成長・材質・強度に優れたスギ品種を選抜する。	木材利用
(2) 小幅板のクロスパネル化による新たな利用価値の創出	H25～29	国産材の新たな活用策として注目されているCLT等クロスパネルの開発、性能評価を行う。	木材利用
(3) スギ一般大径材を活かした心去り製品の開発	H25～29	スギ大径材の価値の向上と利用拡大を図るため、スギ一般（並材）大径材を使った新たな心去り製品の生産技術を開発する。	木材利用
(4) 製材JASに対応した県産材天然乾燥技術の確立	H26～28	県産製材品の天然乾燥を行う場合の気候に適した乾燥期間や割れの抑制方法をマニュアル化し、製材JASに対応した天然乾燥技術を確立する。	木材利用
(5) スギ厚板耐力壁の性能安定化技術の確立	H26～27	県産スギ厚板にダボをはめ込んだ耐力壁の性能（壁倍率）を安定化させる技術を確立し、耐力壁の大臣認定を取得する。	木材利用
2 健全で豊かな森林づくりに関する研究			
(1) ナラ枯れ被害先端地域における効率的防除技術の確立	H26～28	県中・西部のナラ枯れ被害先端地域において、カシノナガキクイムシ（カシナガ）を効率よく確実に駆除する技術を確立する。	森林管理
(2) 地下流水音探査法を用いた効果的山地災害対策のための技術開発	H24～26	地下流水音探査法の実証試験を行い、地下流水音探査法による危険箇所判定技術を実用化する。	森林管理
(3) シカによる造林木への食害防止のための耐雪型ツリーシェルターの改良・開発	H26～28	シカの食害から造林木を確実に守るため、市販されているツリーシェルターの耐雪性能を明らかにし、本県に適したツリーシェルターの改良・開発を行う。	森林管理

試 験 研 究 項 目	研究期間	研 究 内 容	担当研究室
<p>3 活力ある林業・山村づくりに資する研究</p> <p>(1) 低コスト再造林・保育技術の確立</p> <p>(2) 長伐期施業に対応した列状間伐技術の確立</p> <p>(3) 木質バイオマスとしての林地残材の搬出利用に関する実証試験</p> <p>(4) ハイブリッド無花粉スギの創出</p> <p>(5) スギ人工林の品質向上に関する施業技術の確立</p>	<p>H26～30</p> <p>H26～28</p> <p>H26～27</p> <p>H24～33</p> <p>H22～26</p>	<p>再造林にかかる経費を低減する植栽方法・保育手法を検証し、コスト低減が可能な造林・保育技術を確立する。</p> <p>長伐期施業に適した低コストで効果的な列状間伐の技術を確立する。</p> <p>切り捨て間伐で林内に残置されている林地残材を、木質バイオマス資源として有効利用するための効率的な搬出利用の促進に必要な現地実証を行う。</p> <p>既存の材質強度、耐虫性および耐雪性品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高いスギ造林品種を創出する。</p> <p>地域品種であるオキノヤマスギを対象に、強度性能と心材率についての環境及び施業による変動の分析を行う。</p>	<p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p>